スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

【福井県若狭町】
令和５年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）

自治体名	福井県若狭町
担当課名	教育委員会事務局
電話番号	0770-62-2730

1．自治体の基本情報

基本情報

人口	13,600人	部活動数	16部活
公立中学校数	2校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
公立中学校生徒数	411人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

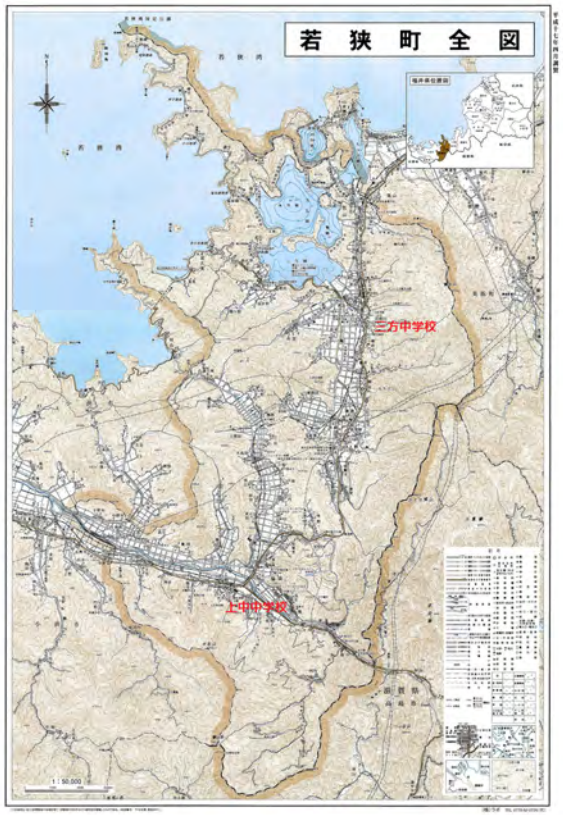
当町では、現在、三方中学校と上中中学校と言う2校の中学校があり、両中学校とも1学年約70名程度の小規模中学校である。

両中学校とも、今後生徒数の減少が見込まれており、単独中学校で部活動を行うには団体競技が組めなくなる等が予測され、部活動の活動体制自体を考えていく時期である。部活動数の削減については、現状でも部活動数が少なく、生徒の選択肢が少ないために、これ以上削減することは難しい。

両中学校で合同部活動を展開していくことも想定出来るが、両中学校は車で30分程の距離にあり、公共交通機関もJRが通っているが、便数が少ないため、JRを利用して移動するのは難しい状況である。

また、中体連主催の大会出場に関しては、三方中学校と上中中学校で予選ブロックが違うため合同チームで出場するとなると、どちらのブロックで参加するのかも課題となってくる。

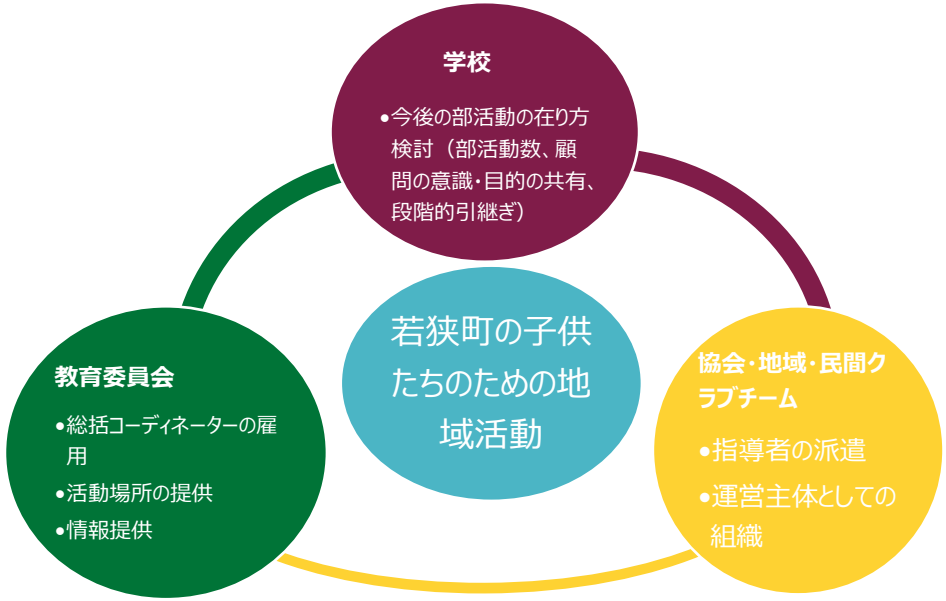
地域移行の受け皿についても、都会の様に民間クラブがあるわけでもなく、総合型スポーツクラブもうまく運営出来ていない状況である。受け皿となる団体や指導者を１から探す必要があるが、中々見つからない状況である。



2．実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● **教育委員会**（教育委員会事務局）
教育委員会は、総括コーディネーターを雇用。
総括コーディネーターはモデルとして地域移行した若狭SBCというソフトボールクラブと連絡調整を行い、課題や解決策を教育委員会と情報共有を行う。
教育委員会、クラブ、学校、総括コーディネーターで検討した課題について、地域移行の受け皿となりえそうな地域の競技団体に情報共有することで、翌年度以降にスムーズな地域移行となるように交渉を行っていく。

年間の事業スケジュール

令和5年3月・・・地域クラブ活動開始に向けて勧誘会
令和5年4月・・・中学校の部活動を地域クラブへ移行
令和5年7月・・・総括コーディネーター雇用
　　地域クラブとして、中体連主催大会へ初参加
令和5年8月・・・地域クラブとして、中体連主催北信越大会へ参加
令和5年10月・・・モデルクラブの課題や改善策などについて、教育委員会、学校長、総括コーディネーターで情報共有
令和5年11月・・・若狭町部活動地域移行検討委員会立ち上げ
令和5年12月・・・第1回若狭町部活動地域移行検討委員会開催
令和5年12月～各種競技団体と地域移行への工程表作成
令和6年3月（予定）・・・第2回若狭町部活動地域移行検討委員会開催
　　地域移行への工程表公表

2．実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

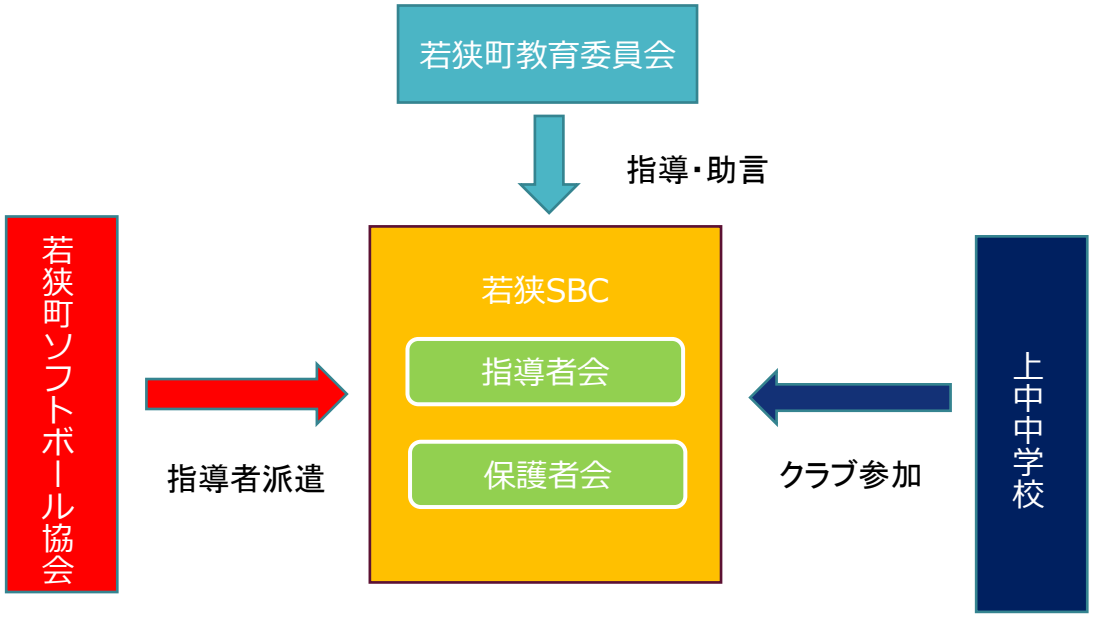
拠点校数	1校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	ソフトボール
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	1部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	上中中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1部活
地域クラブ活動で実施した種目	ソフトボール
運営主体名	若狭SBC
運営類型	地域スポーツ団体等運営型 （体育・スポーツ協会運営型）
１か月あたりの平均的な活動回数	月8回程度
指導者の主な属性	地域競技団体
活動場所	上中中学校グラウンド
主な移動手段	保護者送迎
１人あたりの参加会費等（年額）	約30,000円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2．実証内容と成果

取組内容

▼取組項目名：ア．関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

上中中学校を拠点校として総括コーディネーターを配置。休日の練習について中学校と協会の連絡調整。

1　若狭ソフトボールクラブ（以下　若狭SBC）の総会、指導者会議等への参加
2　若狭SBCコーチ(部活動指導員)として、クラブ（部活動）の活動への参加
3　ソフトボール部顧問、中学校管理職との連携

取組の成果

1　若狭ソフトボールクラブ（以下　若狭SBC）の総会、指導者会議等への参加

若狭SBC総会・保護者会、指導者会議に参加し、クラブの方針、現状、課題、方向性等の協議の場に参加することで、指導者や保護者の生の声を聞くことができた。また、関係者間の連携を深めることができた。

2　若狭SBCコーチ(部活動指導員)として、クラブ（部活動）の活動への参加

コーチ（部活動指導員）として休日・平日の指導に日常的に携わることで、現場の状況や、生徒の活動の様子等を把握することができた。

3　ソフトボール部顧問、中学校管理職との連携

拠点校での勤務によって日頃から顧問や管理職とコミュニケーションをとることができ、地域移行における学校の意向や課題等を把握することができた。教育委員会や協会関係者との連絡調整もスムーズに行えた。



指導者会議への参加

以上のような活動を通して、コーディネーターが、モデル部活動であるクラブの活動状況や課題等を実際に見聞きする形で具体的に把握することができた。それにより得た知見を、地域移行を検討中の団体と情報共有することができた。また、必要に応じて指導助言を行うこともできた。

特に工夫した事項

関係者間の連絡調整をスムーズに行うためのコミュケーションアプリの活用や、意識調査のためのアンケート作成・管理ソフトウェアの活用等、ICTを積極的に活用した。

今後の課題と対応方針

拠点校の上中中での勤務のため、町内もう一つの学校である三方中との連携はあまり進まなかった。今後、地域移行を同一歩調で進めていくためにも、両校の管理職・部活動担当とより連携を密にしていく。

2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

スポーツ団体に指導者派遣を依頼することで、継続的に競技経験や指導経験のある指導者を確保。

1　若狭SBC指導者会議の定期的な開催による指導方針のすり合わせ
2　若手指導者の発掘・育成
3　指導者対象のアンケートの実施

取組の成果

1　若狭SBC指導者会議の定期的な開催による指導方針のすり合わせ

クラブは、監督に部活動顧問1名、コーチに町ソフトボール協会員４名、部活動指導員１名が指導に携わっている。
主要大会の年間スケジュールに合わせて、学期に２回程度、年間６回程度指導者会議が行われ、現状・課題・指導方針等を協議した。
それによって、平日の部活動と休日のクラブとの一貫性のある指導がある程度できるようになった。

2　若手指導者の発掘・育成

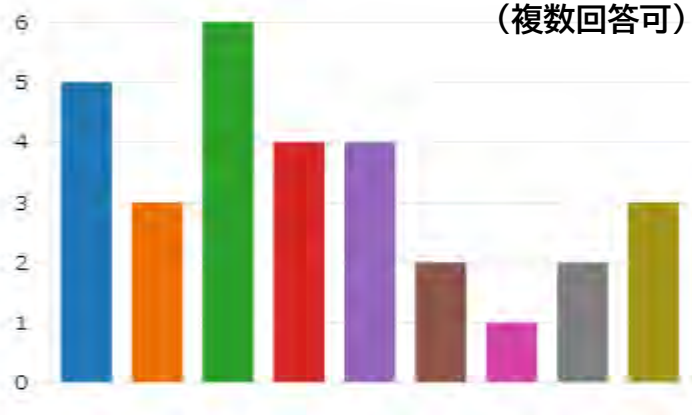
登録されている指導者以外の若手指導者の発掘・育成のため、ソフトボール協会や保護者会のメンバーが、地域の経験者や部OG等に対して積極的に声掛けを行った。その結果、不定期ではあるが、新たに6名の経験者が指導に参加してくれた。

3　指導者対象のアンケートの実施【図１】

クラブがスタートして約1年が経過した。その総括と今後のクラブの運営に役立てるため、指導者6名を対象としたアンケートを実施した。



【図1】クラブでの指導にあたり課題となっていること（複数回答可）



2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組の成果

アンケート結果

クラブを指導するにあたり課題となっていること

アンケートの結果、最も多かったのが「指導者の確保」(6名全員)、次に「平日の学校部活動の指導者との指導方針の連携」(5名)、次いで「活動場所の確保」「活動費の確保」(4名)、「地域クラブとして大会参加」「その他」（3名）となった。「その他」は自由記述で3名とも「選手の人数確保」と回答していた。

「指導者の確保」は大きな課題となっている。クラブの活動は火曜日放課後と土曜日（水～金は部活動）、ほぼ毎回指導にあたれる地域指導者は１～２名、他の指導者は大会前以外は仕事の関係でほとんど参加できていないのが現状である。また、今年度は移行期のため、クラブの監督を中学校顧問が務めているが、6年度からは地域の指導者に委譲していく予定である。監督の引き継ぎも含め、年間を通して地域指導者が指導に携われる指導体制の構築が必要である。

「指導方針の連携」については、指導者会議の中で長期、中期といった大枠のすり合わせはできているが、短期、例えば、土曜日の練習を受けて次週平日の練習メニューをどうつないでいくか、というような点まで詰められていないのが現状である。次年度からは、より一層つながりのある活動ができるよう連携を深めていく必要がある。

「選手の人数確保」も課題である。現在は１0名で活動しているが、うち1年生は2名であり、R6年度新1年生の加入状況によっては、夏以降チームが組めないことが懸念されている。近隣のクラブチーム、中学校も同様の状況であり、クラブの合併、合同チーム等も視野に連携協力していく必要性が出てきている。

今後の課題と対応方針

指導者の確保、選手の人数確保

この２つの課題に対応するために、クラブ保護者会を中心に近隣のクラブチームと互いの連携の在り方について交渉を始めている。ただ、選手登録のルール上、年度途中の合同チーム編成等は認められていない。他中学校(他県)を含めた広域的な選手募集なども含め、中体連や協会等の理解（必要に応じてルール改正）を得ることが重要である。行政からのサポートや補助についても引き続き対応してもらえるよう要望していくことが必要である。

指導方針の連携

指導者会議を定期的に開催し、指導方針等を共有、短期的な指導の連携もできる仕組みを作っていく。また、その際、主役である選手が中心となり主体的な活動ができるよう、目標、メニュー等、選手や保護者含め関係者で話し合い、協力しながら活動を進めていくことを大切にする。

2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

総括コーディネーターに体育専門の退職教員を雇用することで、各種団体との連携強化を図りやすくする。

1　若狭町部活動地域移行検討委員会
2　県中体連事務局、各競技専門部との連携

取組の成果

1　若狭町部活動地域移行検討委員会

12月に第1回の地域移行検討委員会が開催された。町教育長、教育委員会事務局、各中学校校長・部活動主任、各団体代表（軟式野球連盟、バレーボール連盟、卓球協会、柔道協会、剣道連盟、陸上競技協会、吹奏楽関係者）、県保健体育課課長・主任、総括コーディネーターが出席した。

事務局より各団体へ向けて、国の方針、町の方針(R8年度へ向けて段階的に休日の部活動を地域へ移行する)、町として考えられる移行パターン、今後の流れ等について説明があった。そして、会議の内容を各団体へ持ち帰り、移行の形、スケジュール等について検討し、R6、3月をめどに移行に向けた工程表を作成してもらう旨依頼された。その後の協議では、国・町の補助、部活動指導員制度、保険、大会引率、平日・休日の指導等、様々なことがらについて話し合われた。

会議以降は、総括コーディネーターが各団体代表と個別に連絡をとったり、工程表の進捗状況等の確認を行ったりしている。各団体の会議の場に町教委担当者とともに参加するなど連携を図ることもできた。それぞれの団体の現状や課題、地域移行への対応方針等は大きく異なること、また、地域指導者の確保、大会引率の問題等が共通の課題となりそうなことが見えてきた。

2　県中体連事務局、各競技専門部との連携

県中体連事務局への相談・問い合わせ（クラブ認定申請に関する相談等）、各競技専門部との交渉については、総括コーディネーターが窓口となり、町の各団体との連携を図れるようにしている。コーディネーターは以前からのつながりもあり、スムーズなやりとりが可能となっている。

今後の課題と対応方針

地域指導者の確保については、ホームページでの呼びかけなど行政の支援・協力も得て広く募集を行う予定である。大会の引率問題については、県中体連は働き方改革の面から大会の平日開催を基本方針として進めているとことであり、結果として、地域の指導者は平日の大会に参加しにくいということが生じている。今後の中体連の在り方と関わってくる問題でもあり、関係機関と協議を続けていきたい。

2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：エ：面的・広域的な取り組み

取組事項

総括コーディネーターが嶺南市町教育委員会と連絡を取り合い、補助金の考え方等の調整を行う。

1　嶺南市町教育委員会との連携　　（※福井県の北部を嶺北、南部を嶺南という呼び方をしている）
2　県保健体育課との連携

取組の成果

1　嶺南市町教育委員会との連携

R6年１月に嶺南６市町教育委員会担当者、コーディネーターで連絡を取り合い、現状、問題点等を共有した。

〈現状〉どの市町も進捗状況は競技や団体によって異なる。
少しづつ動き出しているものの、どちらかといえば進んでいない競技・団体が多い。助成の考え方もそれぞれであった。
R8に向けて地域移行を段階的に進める市町が多い。
一方で、R8に向けて受け入れ態勢を整えておき、R8に一気に移行するという方針の市町もあった。

〈問題点〉共通して問題点となっていること
受け皿の確保、地域指導者の確保、大会引率、吹奏楽部の楽器・生徒の移動等

〈連携〉連絡を取り合ったことで、各市町の状況や問題点を共有できた。
助成の考え方はそれぞれ違っている。しかし、クラブによっては市町をまたいでメンバーが在籍している場合があり、補助の額などに大きな差が出ないよう、連携を図っていく必要があることが確認できた。

2　県保健体育課のとの連携

県保健体育課の課長、主任が町の地域移行に積極的に関わってくれている。検討委員会にも出席をしてもらうことができ、県や国の方針、県内市町の状況等をタイムリーに伝えてもらったり、質問への回答やアドバイスなどをもらったりすることができている。

今後の課題と対応方針

嶺南各市町の対応はそれぞれ異なるが、定期的に連絡を取り合い、課題を共有し対応を協議していく。県保健体育課とも連携を深めていく。特に、市町をまたいだクラブは今後も増えていくことが見込まれ、助成の在り方等について、連携を密にしていくことが大切である。

2．実証内容と成果

取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

各種スポーツ団体、スポ少等へ地域移行に関する情報共有を開始し、地域移行への支援体制の整備について協力依頼を行う。

1　若狭SBC生徒、保護者対象のアンケート実施
2　各種団体等への情報共有

取組の成果

1　若狭SBC生徒、保護者対象のアンケート調査実施

〈満足度〉

クラブの中学生、保護者15組を対象としたアンケート【図２、３】を実施した。満足度では、生徒の84%、保護者の72%が満足していると回答した。両者とも満足していないという回答はなかった。

〈理由〉 生徒

満足の理由では、「自分の伸ばしたいところが伸ばせた」「指導者がしっかり丁寧に教えてくれる」「たくさんのコーチが来てアドバイスをくれる」「自分のプレーの幅が広がった」「技術が上達した」などがあった。どちらとも言えないの理由として「環境が変わり雰囲気などが変わったから」というものがあった。

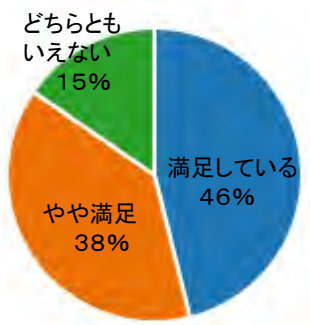
〈理由〉 保護者

満足の理由では、「1年目の手探りの中、たくさんの方に協力をいただくことができた」「地域と学校が連携しているから」「子供の成長につながった」「熱心に指導していただきよい環境だから」などがあった。どちらとも言えないの理由として、「生徒数が少ないのが地域移行としての課題」があった。

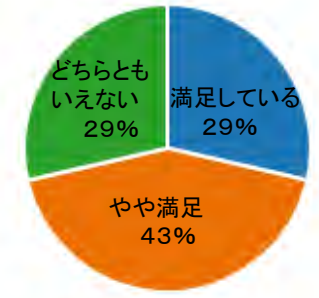
〈さらによくするための意見〉

生徒からは「さらに徹底的に指導してほしい」「自分たちでメニューを決められる日を作る」「より強くなるために練習試合を増やす」「もう少し練習時間を増やす」などの意見があった。保護者からは、「学校と地域の良い連携、関係性を維持してほしい」「生徒人数の確保」「費用、補助の面」「保護者同士の意見交換ができる場がもっとあるとよい」などの意見があった。

地域クラブ活動によって、多くの指導者の関わりや、専門的な指導を受けられる良さを生徒も保護者も感じており、さらなる発展も期待していることがわかる。その中で「生徒数の確保」を不安材料と感じている保護者がいることも分かった。



【図2】クラブの満足度〈生徒〉



【図3】クラブの満足度〈保護者〉

2．実証内容と成果

取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組の成果

2　各種団体等への情報共有

若狭SBCが活動を始めて約1年が経過、その間の活動状況、課題等について、地域移行を検討している団体や、クラブの立ち上げを考えている地域の方と情報共有し、参考にしてもらうことができた。

多くの指導者が関わってくれること、技術の向上を感じていることなどによって、生徒や保護者の満足度が高いことなどの良い点はもちろん、立ち上げまでの道のり、組織体制（総会、指導者会議、保護者会）、指導者の確保、大会引率（特に上位大会）、会費、休日クラブと平日部活動の連携等々、将来的に、クラブが自走していくための課題についても共有することができた。総括コーディネーターがクラブの指導者の一人として関わっていることもあり、より具体的にクラブの活動の状況を伝えることもできた。



複数の指導者による指導の様子

特に工夫した事項

社会貢献活動

若狭SBCは、結成当初から地域に根差したクラブを目標の一つに掲げており、年間活動計画の中に社会貢献活動を取りれている。12月には、学校近くにあり生徒も普段から利用しているJR上中駅の清掃活動を行った。生徒、保護者、指導者が力を合わせて窓ふき、すす払いなどに取り組み、駅舎をきれいにすることができた。地元ケーブルテレビにも取り上げられ、地域貢献と合わせて、クラブの存在も広くアピールすることができた。こういった活動も、これから地域クラブを目指す団体にとって良いモデルのひとつになると考える。



JR上中駅清掃活動の様子

今後の課題と対応方針

地域移行を検討する際、地域の指導者が感じる課題のひとつに、休日のクラブと平日の部活動の連携がある。「休日の活動は地域で指導をできるが平日は仕事で指導ができない。平日の部活動は先生にどのような形で関わってもらといいのか。」ということである。若狭SBCは次年度から指導の中心が学校顧問から地域の指導者へ移行することもあり、「休日の指導と平日の指導の連携」がクラブの重点課題となっている。若狭SBCの取組が軌道に乗るよう、また、その取組の成果を他の団体へ広げていけるよう支援体制を整えていくことが重要である。

2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

地域移行後も、現在の部活動で使用している活動場所を継続して活用できるように学校と協議を行う。

1　学校施設の継続的活用
2　休日でも活用できる施設（部室、小会議室）の整備

取組の成果

1　学校施設の継続的活用

クラブ立ち上げの際、町教育委員会、学校との協議によって、クラブとしての活動の場合でもこれまで通り学校の施設・備品を活用できるようになっており、なんら支障なく活動ができている。今後立ち上げるクラブにおいても同様の支援がなされる予定である。また、立ち上げの際に必要な備品等購入のための補助金もR7年度までは見込まれており、支援があるR7年度までの各団体の受け皿の確保が望まれるところである。

2　休日でも活用できる施設（部室、小会議室）の整備

若狭SBCでは、現状、休日の活動も中学校の顧問や部活動指導員が地域の指導者とともに指導にあたっており、校舎内への立ち入りも可能な状態である。練習試合のときは校舎内の会議室を他校の指導者の昼食場所として活用することもできる。しかし、今後、地域指導者だけでの指導となると(中学校関係者が関わらなくなると)、校舎内（体育館は除く）への立ち入りは難しくなる。そこで、校舎へ入らなくても昼食や休息ができる場所を確保するため、中学校、教育委員会と協議し、グラウンド横の学校倉庫の一角を、部室、小会議室として整備してもらうことになった。職員作業による不要物の撤去や床の張替えなど、学校の大きな支援をうけて無事整備が完了し、R5秋から使用している。



整備した部室、小会議室

今後の課題と対応方針

休日、地域へ完全移行した場合の校舎管理が課題となる。地域の指導者のみでクラブの指導をする場合は校舎への立ち入りはできなくなる。現段階では、中学校の管理職が休日の校舎管理を行うという意向と聞いているが、働き方改革の点からも持続は難しい。今後、例えば、校舎管理専門の職員を町で雇用してもらうといった支援も考えられ、関係機関と協議をしていく必要がある。

2．実証内容と成果

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【クラブ指導者指導風景】



【クラブ指導者練習風景】



【中体連大会優勝】



【地域ボランティア、駅掃除】

2．実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

モデルクラブ指定

●ステークホルダー
上中中学校ソフトボール部
若狭町ソフトボール協会

●経過
上中中学校ソフトボール部の部員数の減少が見込まれ、単独チームで試合出場が困難になる可能性があったため、先行して地域クラブとしてしまいクラブ員を増加させるために若狭町のモデルクラブに指定。

●実施内容、工夫した点　等
学校、ソフトボール協会、教育委員会で頻繁に会議を行い、課題に対して協力して解決を図った。

令和５年

クラブ活動開始

●実施にあたって生じた課題
中学校とソフトボール協会の連絡調整が上手くいかない場面があった。
顧問の指導とソフトボール協会の指導者の指導の違いにより、生徒や保護者が戸惑う事があった。
クラブ会費を低く設定していたため、北信越大会等の上位大会に出場するための指導者の交通費や宿泊費が不足した。

●実施内容、工夫した点　等
問題が起きると、すぐに学校と教育委員会で情報共有を図り、若狭SBCに指導を行うことで課題を即座に解決できるように図った。

検討委員会の設置・開催

●ステークホルダー
町立中学校
教育委員会
各種スポーツ協会

●経過
モデルクラブの活動が落ち着き、課題の洗い出しがある程度出来たので、部活動地域移行検討委員会を開催し、工程表の作成に係る。

●実施内容、工夫した点　等
部活動のある競技団体から代表者を集め、競技団体が主になって地域移行の工程表を作成していくようにした事で、競技の実情に合った工程表の作成を行えた。

令和6年～令和７年度

地域クラブ活動の拡大

令和7年度末までで、町内の部活動の休日部活動地域移行を実施する。
令和5年度に作成した、地域移行への工程表をもとに、各種競技団体と受け皿つくりの交渉、準備に入る。
今後、休日の部活動地域移行と合わせて、平日の部活動地域移行をどの程度、どのように行っていくのかを競技団体と学校を交え検討していく。

3．今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

